R8年度　美作市民文学選奨 【一般:短歌】

	賞	氏名	作品
1	最優秀賞	神﨑　蘭子	喧騒の都会より帰りさみどりに沈み溶けゆき人間にもどる
2	優秀賞	田村　敬子	茶どころに生まれし母をこほしみて茶の花数ふ朝に夕べに
3	優良賞	黒石　佳子	願わくば亡母に届けとバイオリン奏でる曲は荒城の月
4	優良賞	宇野　岱宏	また一軒空家となりて過疎進む村の小川は流れ変らず
5	優良賞	濱田　くに子	暑さに耐へ穂を付け初めし稲の上を労るごとくとんぼの舞ひをり
6	入選	大西　愛莉	夏の日に打席に向かう君の笑顔太陽よりも輝いている
7	入選	日下　智加枝	ピシピシと火玉を弾く線香花火ふたりの喧嘩もすぎておもへば
8	入選	坂元　ちさと	会いたいなでも伝えないこの気持ち胸にしまって明日を待つ
9	入選	酒本　海音	雪降る朝白く染まりし通学路寒さの中に笑顔こぼれる
10	入選	有元　優成	線香花火消える速さに立ちどまり少しさびしい夏の帰り道
11	入選	黒石　初江	彼女より「これ使ってね」と託されし小物入れ使へば彼女が浮かび来
12	入選	春名　奏佑	風鈴の音色に揺られ心地よく暑さ忘れる夏のひととき
13	入選	杉山　莉穂	きみの名を心のなかで叫んでも届かないまま時が過ぎてゆく
14	入選	豊田　絢子	赤蜻蛉日ごと集まり飛びかひて野原にぎはふ秋となりけり
15	入選	森澤　咲弥	枯野原雲雀さえずる空の下散りゆく花に春を惜しみぬ
16	入選	藤原　愛理	あんなにも泣いて怒って取り合ったおもちゃが今や見向きもされず
17	入選	阿北斎	夜の明ける野道のっしり猪がうり坊四頭従えて行く
18	入選	髙橋　泰子	玄関に秋の野の花活け替えて今朝の掃除がすきりと終わる
19	入選	万代　怜奈	冬の街光が灯りきらめけば寒さも少し忘れられそう